メインタイトル（14pt.ゴシック）

サブタイトル（あれば。12pt.ゴシック）

法政ゼミ・キャリア太郎（11pt.ゴシック）

１　目的　（以下、10.5pt.明朝）

　本研究は、□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□を明らかにすることを目的としている。なぜならば、□□□□□□の理由により、□□□□□□□□□の必要があるからである。なお、以下の文章のひな型は、あくまで一例であり、１～５の内容が入っていれば、要旨としては問題がない。ゼミ教員の指導を十分に受けたうえで提出することとする。

２　方法

　本研究では□□□□□□□□□□□□のために、××に関して、①質問紙調査（2014年2月、2015年6月、2015年10月に3回実施、回答数それぞれ54、68、48）および②半構造化面接（2015年10月に実施、対象者7名）を用いてデータを収集した。これらのデータを、①は△△の手法で、②は◎◎の手法で分析をした。

３　考察

　①のデータから、××に関しては、□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□、という結果が得られた。また②のデータから、××に関しては、□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□、という結果が得られた。

　①の結果からは、以下のことが指摘できる。すなわち、□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□。

　他方、②の結果からは、以下のことが指摘できる。すなわち、□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□。

　キャリアデザイン学者の▽▽は「□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□」（▽▽,2015,p.12）と述べている。さらに、◇◇◇は、▽▽の理論をふまえ、「〇〇〇」説を提唱している。この指摘をふまえると、①の結果と②の結果の矛盾は、次のような理解で解釈可能となる。すなわち、□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□。

４　結論

　以上のとから、〇〇は、□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□である、といえる。

　なお本フォーマットは4年生の発表を念頭におき作成している。3年生以下の発表では、データの収集、考察等が中途であり、結論がいまだ出ていないことも当然と考えられる。したがって、それぞれの研究遂行状況に合わせて、本フォーマットに準じる形で要旨が作成されることが望ましい。

５　文献　（第一著者の氏名のアルファベット順・アイウエオ順のいずれかで並べること）

苅谷剛彦（2001）『階層化日本と教育危機―不平等再生産から意欲格差社会』有信堂高文社

（←日本語・単行本を用いたもの）

ルノー,A（.1995）『サルトル、最後の哲学者』(*Sartre, le dernier philosophe*,1993)水野浩二訳、法政大学出版局　　　　（←原著外国語の単行本・日本語訳を用いたもの・原著名と出版年を記す）

Sartre,J.P.(1943)*L'être et le néant―essai d'ontologie phénoménologique* Gallimard

　（←外国書・原著を用いたもの）

山形俊・日高三喜夫(2008)「女子大学生の摂食障害傾向における強迫性と両親の養育態度の関連」『久留米大学心理学研究』7巻,pp. 69-76　　　　　　　　　　　（←雑誌掲載論文を用いたもの）